

ロシア留学体験レポート

新潟国際情報大学
国際文化学科 2年
藤 智洋

私は4か月間の留学を通して、様々な体験をしました。ここには、最も良かった出来事と最も苦労した出来事の両面から記したいと思います。

最も良かった出来事は、やはりロシア語を深く学ぶことができたことでしょう。留学の初期は、文字通り右も左も、上も下も分からず、不安なことだらけでした。初めてスーパーへ買い物に行った際、「買い物袋」のロシア語も分からず、店員さんに怒鳴り散らされあまつさえ舌打ちされたのは、今となっては良い思い出です。授業では、扱われる単語が初めて見るものばかりで、調べるのも一苦労でした。しかし、回を重ねてゆくごとに調べる量も徐々に減り、先生方が仰っている内容も理解できるようになりました。それからというもの、街へ一人で出かけられるようにもなりました。ウラジオストクの街並みを見て回り、ロシアの文化を堪能できました。もちろん、スーパーで買い物をしても怒鳴られることも無くなりました。

最も苦労した出来事は、寮生活が挙げられます。自炊、洗濯などを全て一人で行わなければならない、事実上の一人暮らしであったため、毎日が難儀でした。栄養の偏った食事にならないよう、そして同じ食事ばかりで飽きないように、献立を考えるのも一苦労でした。どれだけ疲れていようとも毎日料理を作る必要があるため、体に鞭をうって作りました。自炊に不慣れなため、料理を失敗することや、食品を腐らせてロスを出すこともしばしばありました。買い物も徒歩で10分ほどのスーパーへ通いましたが、重い荷物を持って氷点下の凍てつく寒さの中を往復するのは、体にこたえました。それらを日々こなしている親は、なんと偉大なのだろうと痛感しました。

苦労した経験の数々も、今となっては全てがかけがえのない財産となっています。留学前は、「4か月は長すぎる」と思っていました。実際に過ごしてみるとあっという間に過ぎ去ってしまいました。何年でも住みたいと思ったほどです。4か月という時間は、言語を習得するうえではあまりに短すぎます。しかし、日本にいては得られなかったものを数多く得られた時間でもあります。留学で得たものを日本でのロシア語学習に生かし、願わくは、再び彼の地を訪れたいものです。

最後に、留学するにあたって、ご支援、ご指導くださった皆様には心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。